

第3回県東地域サイクルーツリズム推進協議会  
議事概要

- 1 日時  
令和4(2022)年7月11日(月) 9:00~10:00
- 2 場所  
Web会議
- 3 出席者  
別紙「出席者名簿」のとおり
- 4 議事
  - (1) 県東地域モデルルート名称の決定について
  - (2) 情報発信・広報について
  - (3) 県東地域モデルルートの活用について
  - (4) 今後の進め方について
- 5 議事概要
  - ・事務局からモデルルート名称について説明し、決定された。
  - ・事務局から情報発信・広報の方法について説明し、その後質疑応答を行った。
  - ・各委員よりモデルルートの活用方法を報告した。
- 6 委員の主な意見
  - (1) 県東地域モデルルート名称の決定について  
意見質疑無し。「栃木県サイクリングルート“鬼怒川・八溝サイクルート”(おにハチ)」で承認。
  - (2) 情報発信・広報について
    - 篠原座長
      - ・観光マップの発行時期はいつか。
    - 事務局
      - ・年度末の発行を目標にしている。
    - 東浦委員(株JTB宇都宮支店)
      - ・観光マップの配布先の道の駅や鉄道駅には、多くの種類のパンフレットがあるため、本当にほしい人の手に届くためには工夫が必要である。
      - 印刷部数は2,500部と限られているため、配布方法は検討したほうがよい。
    - 高根沢委員(株栃木プロジェクトプロ)
      - ・ミウラ折りはポケットに入れて持ち運べる大きさなので人気がある。2,500部はすぐになくなってしまう。
      - ・県外に配布する予定はないのか。9月に那須高原ロングライドが開催され、全国各地からサイクリストが集結するので、これに合わせてマップを配布できるとよい。

○事務局

- ・マップ配布については県外の方が参加するイベント等を有効に活用するとともに、道の駅等では他のパンフレットに埋没しないように、存在感を出せるような工夫をしたい。

(3) 県東地域モデルルートについて

- ①「ぐるとち通年誘客事業について」 県地域振興課 説明
- ②「上三川町自転車活用推進事業について」 上三川町 説明

○篠原座長

- ・何のためにサイクリングルートを設定しているのか、改めて聞きたい。設定することでどのくらいの誘客を見込んでいるのか、どの客層をマーケットの対象としているのか、マネタイズ（収益化）をしながら地域にお金が落ちる仕組みを作らなければならない。

○小池委員（県観光交流課 代理：松村班長）

- ・どのように地域にお金が落とさせていただくか、より楽しく観光していただくにはどうするかがポイントである。
- ・県内の各地域どうして観光客の取り合いにならないように、例えば北関東3県、あるいは関東や東北地方と連携してサイクリングルートを設定してはどうか。
- ・サイクリングと組み合わせて、訪れた地域において観光や食事、宿泊をしてもらうことで経済の活性化につなげていくことが理想である。

○佃委員（JR東日本㈱大宮支社）

- ・鉄道との組み合わせの観点で言えば、鉄道駅からレンタサイクルを使用して地域を巡ると思うので、マップやポータルサイトにレンタサイクルの場所や値段などの情報を示してもらえるとよい。
- ・初級者をターゲットとするならば、地域の既存イベントにサイクリングを組み合わせることも発展性があるのではないか。

○篠原座長

- ・販売促進の一環として鉄道に乗っていただくためにも、鉄道とサイクリングルートをつなぐレンタサイクルの仕組みづくりが大切である。

○事務局

- ・今後は情報発信に向けて、各市町の取組を把握し、県東地域モデルルートと各市町の取組が連携して相乗効果がでるように進めていきたい。

(4) 今後の進め方について

○篠原座長

- ・協議会内の民間の方も含めたワーキンググループを開き、観光客にどのようなサービスを提供していくかを議論した上で、観光マップに反映していくことが大切である。

○大山委員（上三川町 代理：富田主査）

- ・道の駅へのサイクルスタンド設置はいつ頃の予定か。

○事務局

- ・確認して後日回答する。

○事務局

- ・本日欠席している柿沼委員から「県東地域モデルルート of 総評」としてコメントをいただいているので紹介する。
- ・特徴の一つである緩やかな丘陵が続く地形は、ロングスローディスタンスとして長距離を一定強度で走行するトレーニング目的に充てることが多く、宇都宮ブリッツェンの選手たちも日々のトレーニングで走行している。那珂川を始めとする河川が間近に存在することもコースのアクセントになっている。県央県南の関東平野特有の平坦な基調の地形とは異なった魅力が県東地域にあり、プロ選手にとっては緩やかな丘陵であっても上り下りを一定の強度で走り続けることができるので、地形の変化はライディング自体を楽しみに変えてくれるアクセントになる。最後に、主要な幹線道路以外の市道や農道は比較的交通量が少なく、交通へのストレスが少なく走れることも魅力の一つである。

○高根沢委員

- ・那須高原ロングライドの参加申し込みが始まった。これまでは上級者向けコースの応募が多かったが、今回は中級・初級者向けコースに応募が集中しており、顧客のニーズやサイクリストの意識が変わってきた印象がある。この点を参考に、サイクリストが走りたいコースや、ウェルカム感の出し方等ソフト面について議論できるとよい。

7 総括

○篠原座長

- ・利用者のスキル、モデルルートの中のスキルに応じたセグメント、交通手段などを踏まえ、正確なマーケティング分析が必要である。
- ・マネタイズ（収益化）できるよう、民間事業者の力を活用してほしい。
- ・県庁内の業務分担もあると思うが、しっかり横串を刺して、栃木県のオリジナルのルートを作してほしい。

—以上—